

令和8年度「健やかな体」育成プログラム

学校番号：24013

学校名：西白石小学校

令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 結果

分析

<p>体力・運動能力 <男子></p>	<p>○全国平均と同程度もしくは上回った種目 長座体前屈、立ち幅跳び 握力、ソフトボール投げ</p>	<p>○全国平均より下回った種目 上体起こし、反復横跳び、20mシャトルラン、 50m走</p>	<p>全国平均や札幌市の平均と比べると、上回っている種目がほとんどなく、持久力や敏捷性が劣っている。</p>
<p>体力・運動能力 <女子></p>	<p>○全国平均と同程度もしくは上回った種目 握力、長座体前屈 50m走、立ち幅跳び、ソフトボール投げ</p>	<p>○全国平均より下回った種目 上体起こし、反復横跳び、20mシャトルラン</p>	<p>全国平均や札幌市の平均と比べると、瞬発力に関わる種目が上回っていて、持久力や敏捷性が劣っている。</p>
<p>運動・スポーツへの意識 運動習慣</p>	<p>○全国・札幌市平均より低いもの ・「運動やスポーツを見ることへの興味・関心があるか」 …全国男子 51.6%、本校男子 36.7% ・「記録に挑戦したり、記録が上がったり、競い合ったりしたときに体育の授業が楽しいと感じる」 …全国女子 61.1%、本校女子 36.8%</p>	<p>○体育の授業以外の運動時間 ・土曜日 …全国男子 125分、本校男子 140分 …全国女子 68分、本校女子 74分 ○スポーツクラブ加入 …全国男子 64.4%、本校男子 44.8% …全国女子 48.8%、本校女子 63.2%</p>	<p>全国平均と比べると体育の学習に進んで参加し、楽しんで体を動かしている児童が多い。全体的に女子の方が活発で、運動やスポーツに興味関心が強い傾向がある。運動やスポーツへのいろいろな関わり方について指導し、日常的に体を動かしたり自分の健康について考えたりするよう促していく必要がある。</p>

三つの取組

①体育・保健体育等の授業の充実

②授業以外で子どもの運動機会を創出する取組

③子どもが自ら健康の保持増進を図る取組

具体的な取組

○全ての児童が「体を動かすことの楽しさ」を感じられる授業づくりや働きかけをする。
○動画でお手本や自分の動きを見るなど、ICTの有効的な活用を図る。
○運動会に向けた取組の中に「表現活動の踊りの伝達」という特色がある。上の学年の児童が責任をもって踊りを教え、下の学年の児童は憧れと次年度への見通しをもつ。日常的に楽しみながら体を動かすきっかけにする。
○運動会后、5年生以外の学年もスポーツテスト（走・投・跳のみ）を実施する。経験値を高めるとともに、自分の成長を実感できるようにする。
○マット・跳び箱週間や縄跳び運動を推進し、児童の持久力や敏捷性の向上を図ると共に、活動場所の確保や環境整備に努める。

○休み時間には、教職員が体育館やグラウンドに出て児童の安全を見守り、「三間（時間・空間・仲間）」を意識しながら自然に体を動かしたくなるよう、日常体育の推進を図る。
○全校朝会などで、日常的に体を動かすことの大切さを伝える。
○委員会との連携を図りながら「休み時間の運動遊びの推奨」などによって、友達と体を動かすことの楽しさに気付いたりや運動量を確保したりすることを目指す。
○スポーツテストの期間中は、実施しない種目にも触れることができるよう、器具を常設したり、休み時間には教師の監督の下で体験できるようにしたりする。

○道徳や総合的な学習、学活、助産師による命の授業などを通して発達段階に応じた性に関する指導の充実を図る。
○親学校栄養士と連携し、「よりよい食生活のあり方」「地産地消やフードリサイクル」等、食に関する指導の充実を図る。
○委員会活動やクラブ活動、縦割り活動等、児童の自治的な取り組みの中で、体を動かしたり健康について考えたりする機会を設ける。
○ICTを活用したアンケートやポスター作りの指導を行うことで、運動や健康について発信する力を身に付けられるようにする。
○長期休業中の健康な生活を意識付け、ラジオ体操や「雪かきチョボラ」等を促す指導をする。

家庭・地域との連携・協働

○保健体育の評価規準に基づく学習状況評価結果の活用（日常の実技テストや観察等）
○全国体力・運動能力、運動習慣等調査や学校独自の調査結果等を活用
○学校独自の児童・アンケートや保護者アンケート
○運動や健康について、学校HPでの情報提供・学校だより等での保護者への啓発